

平成31年度(令和元年度) 学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知江の口特別支援学校高知大学医学部附属病院分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像 病弱児童生徒の障害の程度、能力、適性、進路に応じた教育を行い、学校、医療・福祉、保護者、地域との連携のもとに、学が楽しさや生きる喜びを育て、自己肯定感をもって社会参加し、自立できる人間に育てる。	目指すべき取組の概要	センター的機能の発揮及び、チーム学校として組織的・協働的に以下の項目に取り組む。 【1】専門性の向上 ◇病弱教育に対する教職員の知識とスキルの向上を図る。 ICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」につながる実践研究を行い、授業力の向上を図る。 【2】キャリア教育の推進 ◇児童生徒の自己肯定感や自尊感情を育む。 【3】学校設定項目 ◇多様な教育ニーズに対する教育内容の創造。 高知県特別支援学校再編振興計画(二次)に係る確実な進捗管理 【4】働き方改革 ◇適切なタイムマネジメントと業務の効率化。
《取組の方向性》	①チーム学校の構築 ②厳しい環境にある子どもたちへの支援 ③地域との連携・協働	《目指すべき姿》	児童生徒像 ・自分や周りの人たちが大切にできる児童生徒 ・目標を持ち、自ら考え行動できる児童生徒 ・自分の将来に夢をもつことができる児童生徒 ・病気の回復や改善に必要な態度や習慣を身に付け、病気に負けず夢や希望に向かって進もうとする児童生徒	目指すべき取組の概要	

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	<p>◆ICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」につながる実践研究を行い、授業力の向上を図る。</p> <p>◆学習の空白や遅れを作らないように、個々の児童生徒の実態に合わせた授業づくりを行い、安心して前籍校に復学できる学力をつける。</p>	<p>◆教員のICT活用の知識・技術の向上がみられるが、より効果的な活用が課題。</p> <p>◆転入時においては、学習の空白や遅れが出ている児童生徒は少ない。しかし、病状や治療で学習できる時間は限られているため、各教科等において学習内容を精選し、効率的な授業を行う必要がある。</p> <p>◆児童生徒の病気は多岐にわたっており、病気についての知識・理解を深める必要がある。</p> <p>○学校評価における児童生徒アンケートの学習に関する項目の肯定的評価80%以上。</p> <p>○学校評価における教員のICTの効果的活用についての項目の肯定的評価を70%以上</p> <p>○児童生徒用の授業チェックシートの作成</p> <p>○転出時、個々の児童生徒の主要教科の未学習の内容を10%以内にする。</p>	<p>◇ICTを活用し、効果的で効率的の良い授業へ改善するため研究授業を年間1回以上実施。</p> <p>◇ICT支援員等外部講師を活用した教員の研修を年間3回以上実施。</p> <p>◇児童生徒用の授業チェックシートを作成し、教員用のチェックシートとあわせて研究授業等(年間2回)で活用し、研究を深める。</p> <p>◇前籍校での学習の進捗状況を確認しながら授業内容を精選して進める。</p> <p>◇医師等の外部講師を招聘しての「病気」についての研修会を年間3回以上実施。 (児童生徒の病気に合わせた内容)</p> <p>[テーマ例] ・「小児の心臓病について」 ・「小児がんについて」 ・「児童生徒の心の病気について」 ・「病気の子どもへの心理的ケアについて」等</p>	<p>◇児童生徒用の授業チェックシートの検討に時間がかかったため、研究授業の実施が2学期の中盤以降になった。</p> <p>◇ICT支援員による研修会(ドローンの活用、プログラミング)を2回実施し、プログラミングの基礎について理解を深めることができた。</p> <p>◇医師等の外部講師を招聘しての研修会は、「小児循環器疾患(心臓病)」、「小児看護師の役割」について実施した。その中で病識や小児看護の役割、看護の視点からの子どもや保護者の理解等について研修を深めることができた。</p>	<p>◇教員用・児童生徒用の2つのチェックシートを活用して研究授業を実施し、授業改善に努める。</p> <p>◇3学期に実施予定の3回目の研修では授業の中でどのように取り入れていくべきかについて研修を深める。</p> <p>◇今後、「脳腫瘍(小児がん)」について実施予定。</p>	<p>◇2つのチェックシートを活用した研究授業を1回、個々の教員が個別に実施したシートの活用についての校内研修会を1回実施することができた。</p> <p>◇来年度からのプログラミング教育の実施に向けてICT支援員を活用して研究を深めることができた。(ドローンの操作及びプログラミング、プログラミングソフトの活用、プログラミングの授業)</p> <p>◇高知大学医学部附属病院の医師等を招聘しての研修会4回実施することができた。(心臓疾患について、小児の脳腫瘍について、小児看護の視点から見る病気を持つ児童生徒、事例から考える病気の児童生徒及び保護者の思い)</p> <p>◇転出時の未学習については、転出した児童生徒5名中、4名は未学習は無い状態で転出した。生徒1名は体調が悪かったり、学習に向かう気力が無い状況が続きほとんど学習できなかった。しかし、居住地校交流は充実した取組みとなった。</p>	<p>◇学校評価アンケートの「分かりやすくするために、プリントやタブレット等を活用しているか」という問いには、児童生徒・保護者とも「そう思う・ややそう思う」の肯定的評価は100%であった。また、教員のICT活用についての肯定的評価(そう思う)は80%であった。学校関係者からも、「児童生徒数が少なく個別教育がしやすい中で、ICTを積極的に活用し、効率化できている。」という評価もいただいた。児童生徒の「先生は分かるまで教えてください」という問いについては、「そう思う」、「ややそう思う」の肯定的評価は、それぞれ50%となっている。今後も引き続き研修を重ね、「そう思う」を100%に近づける必要がある。</p> <p>◇児童生徒用の授業チェックシート「学びのシート」を作成し研究授業等で活用できた。</p> <p>◇5名中4名の児童生徒については、転出時の主要教科の未学習の内容を0%とすることができた。</p>	<p>◆今後は、2つのチェックシートの改善を行いながら、さらに研究授業の実践を積み重ね授業改善の状況を見ていく必要がある。</p> <p>◆概ね学習空白がないように対応できているが、前籍校での学習空白が非常に多い場合は難しくなる場合がある。さらに学習内容を精選して進められるよう研修を進める必要がある。</p> <p>◆児童生徒の実態把握や支援方法については今後も研修を重ねる必要がある。</p>
キャリア教育の充実	<p>◆登校や学習への指導・支援に困難性が高い児童生徒への取組を進める。</p> <p>◆病気と向き合いながら、進路や職業について考える力を育み、学習意欲を高める。そして、治療に向かう力にもつなげる。</p>	<p>◆病気のため学習意欲が低下していたり、自分の将来に目を向けにくい児童生徒は少ない。よって、外部講師を招き、児童生徒が自分の将来の生活について考えるきっかけにしたり、ストレス発散の場を設ける必要がある。</p> <p>◆自立活動等の時間を効果的に活用し、入院生活のストレスの軽減を図り、学習意欲を高める。</p> <p>○外部講師による児童生徒の学習の時間を年間5回以上実施する。</p> <p>○学校評価アンケート等の分析</p>	<p>◇ゲストティーチャー等による授業及び、ボランティア等による課外授業を実施。</p> <p>◇自立活動の時間に、本人の興味関心を考慮しながら、体を使ったゲームやボードゲーム、ドローン等を取り入れながらストレス軽減を図る。また、状況によってはSCにつながる。</p>	<p>◇「将来の仕事を考えよう〜グラフィックデザイン〜」として国際デザイン・ビューティ・カレッジグラフィックデザイン科 桑名史 氏を招いて授業を実施した。児童生徒は興味津々で取り組み、しっかりと質問することもできていた。</p> <p>◇自立活動でボードゲームをする中で、いろいろな話をして生徒の情報を得ることができた。本人もストレスの軽減につながっていた。</p>	<p>◇ICT支援員を活用し、プログラムについての授業を実施予定。</p> <p>◇児童生徒の病状や学習計画を考慮しながら自立活動を効果的に実施する。</p>	<p>◇外部講師による学習については、 ・グラフィックデザイン ・食育の学習 ・インターネットの安全な使い方 ・プログラミング学習 ・ドカドカ音楽鑑賞 ・ALTによる外国語学習 等を実施することができた。児童生徒の転出入が多いため、児童生徒の興味関心に沿った内容とすることが難しかったが、児童生徒のアンケートの評価はおおむね好評であった。</p>	<p>◇学校評価アンケートで、児童生徒の問いの「特別授業は楽しかったか」の評価は「そう思う」50%、「その他」50%となった。その他については、授業を受けていないという理由であった。転出入が多いためと考えられるが、今後工夫が必要。学校関係者からは、「病気のある児童生徒に対応した、様々な試みができている。」という評価をいただいていた。</p> <p>◇自立活動については、本人の興味関心を考慮して実施、活動する中で児童生徒の情報収集を行い指導に生かすことができた。また、児童生徒にとってもストレス発散の場とすることができた。</p>	<p>◆登校や学習への指導・支援に困難性が高い生徒への対応を、SCも交えながら検討して支援してきたが、あまり良い結果が得られなかった。この取組をしっかりと分析して次に備える必要がある。</p> <p>◆今後も、病気に対する不安や入院生活のストレスを軽減するためにゲストティーチャー等による授業や自立活動の授業を効果的に実施していく。</p>
学校設定項目	<p>◆病弱特別支援教育の充実のため、第二次再編振興計画を着実に進める。</p> <p>◆病院、保護者、前籍校との連携し、学習の保障と充実を図り、円滑な前籍校への復学につなげる。</p>	<p>◆昨年度、平成32年度の訪問教育の開設に向けて、本校、特別支援教育課と連携しながら課題について共有を行った。今後も3者の連携を深めながら進める必要がある。</p> <p>◆病院と連携し、病状の確認・治療の見直し等を確認しながら学習内容の充実を図る必要がある。</p> <p>◆スムーズな復学に向けて、児童生徒の状況に応じて交流及び共同学習を実施する必要がある。</p> <p>○訪問教育開設準備会の設置。 ○医教連絡会を3回以上、医教連絡協議会を2回実施する。 ○参観週間を年間3回実施する。</p>	<p>◇本校と連携して準備会を設置し、特別支援教育課、高知若草養護学校、国立高知病院分校と連携して準備を進める。</p> <p>○医教連絡協議会及び医教連絡会の実施。</p> <p>○必要に応じての支援会議の実施。(前籍校、病棟、分校等)</p> <p>○参観週間を各学期に1回実施する。(保護者・病院関係者に案内)</p> <p>○児童生徒の状況に応じて、テレビ会議システム等を活用し、交流及び共同学習を実施。</p>	<p>◇本校、本分校、国立高知病院分校、特別支援教育課の四者で訪問教育検討会(仮称)を7月に実施し、来年度に向けての基本的な方向性を確認した。</p> <p>○医教連絡協議会を実施し、本分校の学校経営計画と学校評価アンケートの内容について確認した。医教連絡会については児童生徒の在籍が少なかったため1回の実施となっている。</p>	<p>◇来年度からの訪問教育をスムーズに実施できるようにするために、訪問教育準備会において今後の課題について検討する。</p> <p>◇学校評価アンケートをもとに、医教連絡協議会を実施し、学校改善につなげる。</p> <p>◇児童生徒の状況により、医教連絡会を実施し、情報交換を密にする。</p>	<p>◇訪問教育開設準備会については、本校の校長・教頭・主幹、医学部附属病院分校の教頭、高知若草特別支援学校の校長、国立高知病院分校の教頭、特別支援教育課(課長以下4名)で、年2回実施することができた。会では、来年度からの実施に向けての確認ができた。</p> <p>◇医教連絡会は、学期に1回、年間3回実施し、児童生徒の状況について情報共有ができた。医教連絡協議会は年間2回実施の予定であったが、1回は1学期に実施できた。3学期に実施予定していた会については、新型コロナウイルス感染症拡大を予防するため実施できなかった。そのため、資料等を配布し文書で学校評価をしていただいた。</p> <p>◇参観週間は3回実施したが、参観者は少なかった。</p>	<p>◇訪問教育開設準備会を年間2回実施し、来年度からの方向性を確認できた。</p> <p>◇医教連絡会、医教連絡協議会も分校の状況に合わせて実施されている。また、学校関係者からは、「前籍校と連携して情報共有するために、しっかりと支援会議等ができています。」といった評価も得ている。</p> <p>◇参観週間は、計画どおり年間3回実施されているが、参観者が少なかったため、今後の啓発等に工夫が必要。</p>	<p>◆来年度から分校において行われる訪問教育については、初めてのことであるため、本校の実践例を参考にしながら対応していく必要がある。</p> <p>◆病院、保護者、前籍校との連携は概ねうまくいっているが、細かな点で、改善していくことができる点もあると思われるので、再度整理してより良い連携につなげる。</p>
働き方改革	<p>◆適切なタイムマネジメントと業務の効率化を図る。</p>	<p>◆H30年度は、教員間での業務分担に一部偏りがあった。H31年度については、中四国病弱虚弱教育研究協議会での提案発表等があるため、全体の仕事量を確保し、できるだけ公務量に偏りがないようにする必要がある。</p> <p>○評価指標 ○年休:5日以上取得 ○反省職員会等の意見 ○面接による教員からの聞き取り</p>	<p>◇事前に年間の業務の内容や量について洗い出しを行い、年度当初の組織職員会で公務量に偏りがないように分担。</p> <p>◇学期末ごとや転入児童生徒の状況を見ながら確認を行い、偏りが出た場合はできる範囲で、皆で分担。</p>	<p>◇職員会議等で業務の内容や進行状況を確認しながら、協力して進めることができています。</p> <p>◇夏期休暇も全員5日間取得することができた。年休も年度当初から8月末まで5日以上取得ができています。</p>	<p>◇引き続き、情報収集を行いながら職員会議等で検討して進める。</p>	<p>◇年休5日間以上、夏期休暇5日間を取得することができている。</p> <p>◇児童生徒の在籍状況や体験学習の希望により、仕事量に偏りができる状況もあったが、職員会等で検討しながら、学部・校務分掌間で協力を行うことができた。</p>	<p>◇年休等の活用はできている。</p> <p>◇校務分掌等の仕事分担についても教職員で工夫して取り組むことができています。</p>	<p>◆業務の効率化については、細かな点で改善はされてきており、効率化を進めることができていますが、仕事量の偏りについては今後も注視し、工夫を重ねる必要がある。</p>